

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

vol. 81
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン



日本財団『子ども第三の居場所』徳島万代クレエール

とくしま市活センター

とくしま市活センター TOKUSHIMA NPO CENTER

徳島市市民活力開発センターとは？

徳島市市民活力開発センター（市活センター）ではNPO活動の支援、行政との協働事業を推進するための拠点として、徳島市や周辺の11市町村（徳島東部地域定住自立圏）に活動の場を持つNPO団体へさまざまなサポートを行っています。指定管理者として、認定特定非営利活動法人新町川を守る会が運営しています。

開館日

火～土曜日 10:00～21:00 / 日曜・祝日 10:00～18:00

休館日

月曜日 ※月曜日が祝日にあたる場合はその翌日
年末年始・お盆

連絡先

[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] nposhimin@fm.nmt.ne.jp
[H P] www.tokushima-shikatsu.com

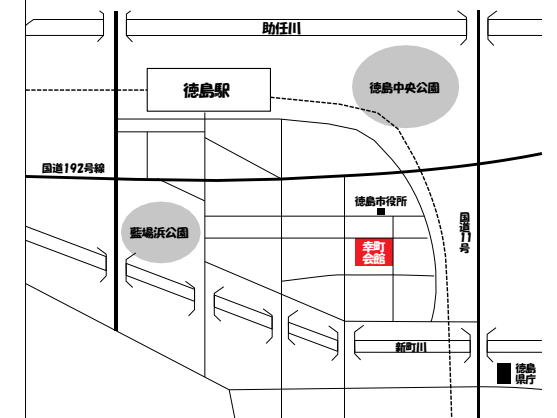
HP



Facebook



ACCESS MAP



所在地
〒770-0847 徳島市幸町3-71-1 幸町会館1階

お車でも越しの方
当センターの駐車場（1台分）もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。

バイク・自転車でも越しの方
センター東側の駐輪場をご利用ください。



センター長 岸田 侑
助成金申請のサポートや、NPOと行政、NPOと若者とのマッチングなどに注力しています。ぜひご利用ください。



スタッフ 長谷川 隼
広報誌や会計事務を主に担当しています。会議室や機材の利用、お悩み相談でも、いつでも気軽にお越しください。

PASSPORT.

発行月：2022年3月 号数：81号 発行：徳島市市民活力開発センター
この広報誌に関するご意見、ご感想は、発行元である徳島市市民活力開発センター（088-611-3886）までご連絡下さい。

イベント情報大募集！！

PASSPORTへの掲載や、メールマガジンでの配信、徳島市市民活力開発センターの掲示板へ配置させていただく情報を随時募集しております。「取材に来てほしい！」「こんなイベントするよ！」といったお声をお待ちしております！



NPO法人 Creer(クレエール)とは？

障がいのある人も社会の中で仕事ができ、自立していけるようにしようという趣旨で2008年に設立。“creer”はスペイン語で“信じる”という意味で、可能性を実現できることを信じ、生き生きと働ける職場づくりを目指している。

〔住所〕
〒770-0941
徳島県徳島市万代町5丁目71-4

〔電話番号〕
088-654-5205

〔FAX〕
088-677-5206

〔mail〕
creer5205@gmail.com



NPO法人Creer(クレエール)の
主な活動内容とは？

「子ども第三の居場所」
の他にも、こんな活動をして
います！

1 お弁当製造販売／レストラン

障がいを持つ人が擁護される立場ではなく自立していくことを目指し、就労の場として地産地消のお弁当やスイーツの製造販売やレストランを運営している。



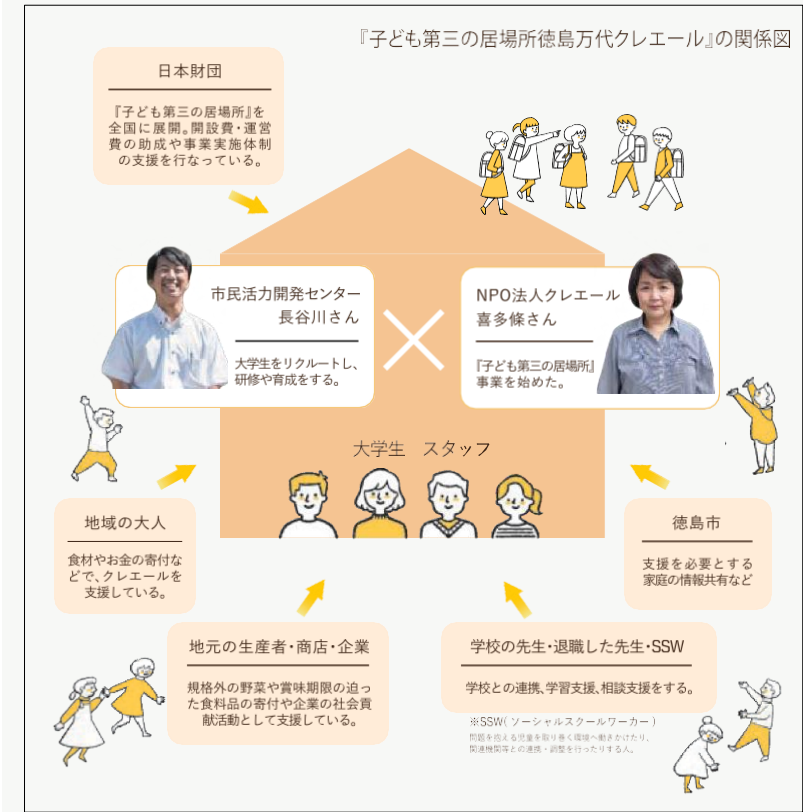
2 子ども食堂

子ども無料、大人500円で利用でき、平日毎日と第4土曜日に開いている。クレエールで働き、自立できる賃金を得られるようになった障がいのあるスタッフが地域への恩返しをしようと、身についた調理の技術を生かして、2018年より「子ども食堂」を開始。クラウドファンディングで集まった200万円もの寄付金で立ち上げの財源を賄った。平日平均25人、第4土曜 約200人が利用している。



3 子ども宅食

子ども食堂をする中で、様々な事情で食堂まで来られない子どもたちがいる現実に向き合う。そういった子どもたちのために始めたのが「子ども宅食」だ。お弁当を配達し、家庭環境や困った様子がないかを見守っている。



【開所日】平日 15:00~20:00、第4土曜 日 9:00~15:00
【お休み】日曜祝日・第4以外の土曜日 ・年末年始

『子ども第三の居場所』とは、日本財団が様々な困難にある子どもたちを支援することを目的に行なっている事業です。全国に『子ども第三の居場所』を拡げる中、今回新たに応募した団体の中で『NPO法人クレエール』が選ばれ、徳島市万代町に拠点を開設し、運営を開始しました。

子どもたちの将来の自立に向けて「生き抜く力」を育むために、安心して過ごせる居場所、栄養バランスのとれた温かい食事、基本的な生活習慣、それぞれの子どもの寄り添った学習支援、非認知能力を育む体験の5つの機会を提供しています。



↑2021年10月23日、オープニングセレモニーに飯泉知事や内藤市長の他多数の来賓の方が参加され、テープカットを行いました。



”生き抜く力”を育む
『子ども第三の居場所』

安心な場にするために

「クレエールの取り組みは社会からの需要が莫大にある。やけん、僕らが関わることで何か助けになればいいなって思う。」多くの人からの必要とされていると同時に人材不足が課題になっているクレエール。そこで、徳島市市民活力開発センター（以下市活センター）は大学生を起用し人材不足の解決を図ります。「『第三の居場所』は、子どもたちにとって安心して、健やかに過ごせる場所でありたい。」と長谷川さん。そのために、まずは子どもたちが意思表示をしやすい環境づくりが大事だと考え、子どもと年齢の近い大学生を起用しています。ただし、大学生なら誰でもいいわけではなく子どもたちと同じ目線に立ち、彼らの成長に寄り添う人材である必要があります。そこで、将来子どもと関わる職業を目指しており、この事業の目的に賛同してくれる大学生にターゲットを絞り、声を掛けたそうです。市活センターでは、佐那河内村や上勝町で教育事業を過去に行っており、そういった経験も役に立ったと言います。

ミスマッチを防ぐ

人材確保の上で気を付けていることは、「大学生にとっても、ここに居たいと思う場所にする」ということです。そのために、「“ミスマッチ”が起こらないようにするということを、協力団体として一番気にした。」と長谷川さん。面接や研修を通して、クレエールという組織やこの事業の目的についてしっかり伝えるときともに、大学生の望むものや人柄をしっかりと把握し、その上でお互いに合意できた場合に子どもたちの見守りスタッフとして参加してもらうようになります。「願わくば、彼らが社会に出たときにここでの経験が糧となってくれるような、そんな体験になってほしい。」と、大学生への想いも感じられました。

掲げたテーマ

「僕らが中間支援として入ることによって、子どもたちはより豊かに生活できるようになって、親も安心できて、関わる大学生にとって学びがあって、結果、クレエールが助かる。そして、もっと障がい者支援や子ども宅食などのクレエールにしかできない支援にもっと力を入れることができるようになって、その受益者がどんどん増えていく。そういう風になってほしいと思う。」大学生のみならず、クレエールや子ども、その親にも利益があるようにしたいという想いを持って、センターとしての役割を果たしていく長谷川さん。「『第三の居場所』に関わる人全員が何かしらのメリットがあるようにしたい。それが市活センターの職員とし僕が掲げているテーマ。」より多くの人に利益をもたらし、それが波及していくことを長谷川さんは願います。



みんなの安心を

「子どもや家族、高齢者、障がいのある人、学生、みんなが『自分はここに居てもいいんだ』とここに来て、安心できて、楽しく笑顔で過ごせる素敵な空間になったらいいなあと思いますね」と、優しい声と真っ直ぐな目で語るのは、NPO法人クレエールの喜多條さん。『子ども第三の居場所』では、“安心安全な場所”であることを一番大事にしており、それから時間をかけて学習支援や生活面の支援を行なっています。

あたたかい食卓の時間

『子ども第三の居場所』では、手作りの温かいご飯を喜多條さんや大学生スタッフ、子どもたちのみんなで食べて楽しく過ごします。「この大きいテーブルで、今日集まった皆が温かいご飯を囲んで食べていて、それがすごくいい時間です。こんな食事の風景って昔の大家族みたいで。こういう場面は今なかなかないですね。」と、そのときの皆で過ごしたあたたかい時間を思い出すように、ほっこりした笑顔で写真を見せてくださいました。

誰にも取られることのない財産＝生き抜く力

“生き抜く力”を育む『子ども第三の居場所』。ここでは、みんなでご飯を食べるだけではなく、子どもキッチンを設置し、自分で調理ができるようにお米の炊き方やカレーなどの作り方を教えています。食材は、地元の農家さんがくれる野菜をたっぷり使っています。また、大学生スタッフや退職された学校の先生が毎日熱心に勉強を教えています。そのような機会がある子どもたちの姿を見て、「毎日一生懸命教わっている姿はとてもいいなあと思います。」と喜多條さん。「食べ物やモノは取られると無くなってしまうけど、自分で身に付けた調理の技術や、勉強した知識は、その子どもの“誰にもとられることのない財産”になる。それがまさに“生き抜く力”だと思います。」

子どもたちへの想い

「子どもたちには、毎日お腹を空かせることなく、ちゃんと学習する機会があって、将来したい仕事を考えたり、夢に向かって努力したりして、幸せに生きていけるようにしたいなといつも思っています。」温かいごはんをみんなで食べたり、勉強を教わったりしながら、人と関わり、“生き抜く力”を育む。そんな学校でも家でもない、子どもが安心して暮らせる『子ども第三の居場所』。喜多條さんはパワーいっぱい、来る日も来る日も忍耐強く、子どものために頑張っています。



クレエールは誰も取りこぼすことなく、
地域みんなが子どもたちを育てる社会を目指しています。
そんなクレエールに関わる人を募集しています！



利用者

【対象年齢】小学1年～高校3年
【定員】20名
【対象となる条件】ひとり親世帯のお子さん。障がいのあるお子さん。夜遅くまで親が帰宅できないご家庭のお子さん。生活保護、就学援助等を受けられているご家庭のお子さん。その他個別にご相談に応じますので、クレエールまでご連絡ください。
家庭の事情やニーズに合わせて、「子ども第三の居場所」だけではなく「子ども食堂」「子ども宅食」の利用もできます。



スタッフ

子どもたちの目線に立って寄り添う大学生ボランティアを募集しています！家庭によって事情があるので、守秘義務を守り、愛情を持って子どもたちと関わっていただけて一緒に温かい晩ごはんを食べ、絵本の読み聞かせや、遊び相手、学習支援などを行います。将来、小学校教員や栄養士、心理職など、子どもと関わる仕事をしたいと考えている大学生も歓迎です！食事、交通費等の支給があります。



寄付

お米や野菜、レトルト食品・お菓子、飲料などの食料品、ノートや筆記用具などの文房具、衛生用品などの物品の差し入れや、金銭による寄付を募集しています。たくさん地域の農家さんや企業、個人の方からご支援いただき、大変助かっておりますが、クレエールには、300世帯以上の子育て家庭が登録しており、平日平均25人、第4土曜日は200人以上の子どもへ調理したお弁当や食材の提供を行っています。引き続き更に多くの皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先 >> NPO法人クレエール 〒770-0941 徳島県徳島市万代町5丁目 71-4
tel. 088-654-5205 fax. 088-677-5206 mail. creer5205@gmail.com

現場で活躍する大学生の存在

『第三の居場所』で子どもと遊んだり、勉強を教えたり、一緒にご飯を食べたりして、共に過ごす大学生スタッフ。子どもと直接関わる大学生たちの心境の変化や、子どもとの関わり方について尋ねてみました。



携わる前の心境は？
あさか 元々夏休みにクレエールでボランティアをしていましたが、コロナでできなくなってしまったので長谷川さんから声を掛けてくださったときはとても嬉しかったです！やっというけるって思いました。
ももこ 私もとても嬉しかったし、楽しかったです！けど、子どもと関わる機会は中々無かったので、自分の行動がどう子どもたちに影響を与えるのか不安でした。



実際どうでしたか？
ももこ 楽しいよね。始めのイメージと全然違う。遥かに楽しいです！
あさか 子どもたちがかわいしいし、子どもたちが楽しそうにしているのを見たら、自分も楽しい。子どもが居ないときは、寂しいなと思ってます。
ももこ あと、職員の方とコミュニケーションをとるのもすごい楽しいです！
子どもたちと接するとき、気を付けていることはありますか？
ももこ 実際に子どもと関わっていたら、普段気づかない小さな発見が多くて、そこをどう直せるかとか、子どものためにどうやって行動できるかを常に考えています。
あさか 私は、危ないことを上手く避けてどうやったら楽しめるか、と考える力がつきました。
ももこ 制限し過ぎたら楽しくなくなっちゃうかもしれないもんね。
あさか そう、その度合いが難しい！危ないことをしないようにしつつ、のびのびと遊べるようにしています！



↑ 椎野さん（右から1番目）と坂本さん（右から2番目）は美術部に所属していた経験を活かし、入口のドアに絵を描くのを手伝ってくれました。

これからもこの活動を続けたいですか？
あさか・ももこ 続けられるだけ続けたいです！
あさか ここでは、楽しさだけではなく、子どもと接することの大変さも感じられました。成長する過程で重要な時期に関われるのって、とてもやりがいがあります！
ももこ 色んな立場や性格があったり、個性に溢れていたり。そういう子どもたちと関わる機会があることはすごいありがたいので、これからも続けていきたいです！

INTERVIEW

学習支援を担う
大学生の生の声をお届け！

あさか
椎野 朝香
ももこ
坂本 百蔵

学習支援事業に携わる、四国大学1年生の椎野さんと坂本さん。二人は、小学校教員を目指しており、現在子どもに向けたイベントを行うサークルに所属しています。